

## Ⅱ 調査結果の詳細



## Ⅱ 調査結果の詳細

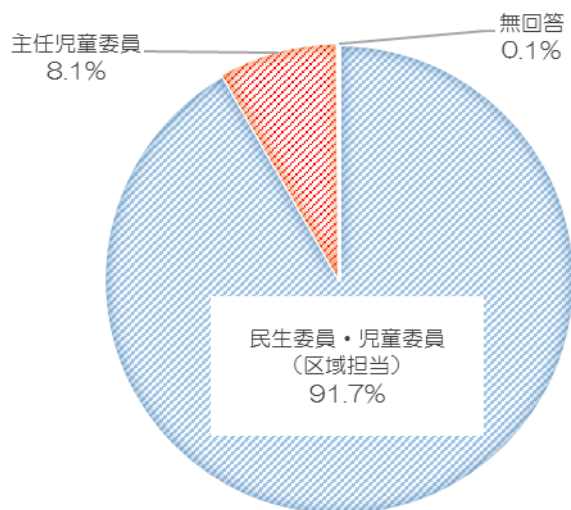
(注) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、百分比の合計が100.0%にならないことがある。

### 【問1】 民生委員・主任児童委員の別

あなたが当てはまる方に○をつけてください。

[n=3,295]

- ア 民生委員・児童委員（区域担当）
- イ 主任児童委員  
（無回答）



回答	ア	イ	無回答	計
	3,023	268	4	3,295

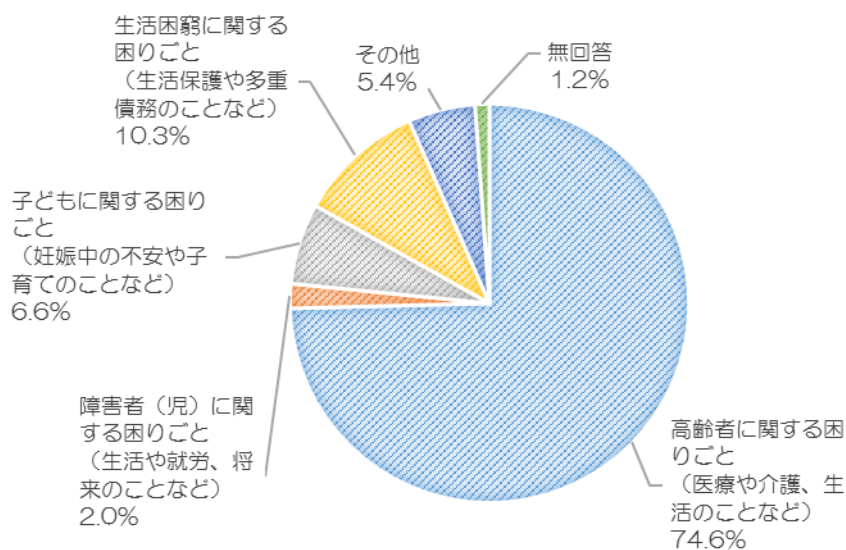
全体で見ると、「民生委員・児童委員（区域担当）」がおよそ9割、主任児童委員がおよそ1割となっている。

【問2】相談の分野

あなたは、これまでに受けた困りごとの相談で、どのような相談が多いと感じますか。  
最も多いと感じるもの1つに○をつけてください。

[n = 3, 295]

- ア 高齢者に関する困りごと（医療や介護、生活のことなど）
- イ 障害者（児）に関する困りごと（生活や就労、将来のことなど）
- ウ 子どもに関する困りごと（妊娠中の不安や子育てのことなど）
- エ 生活困窮に関する困りごと（生活保護や多重債務のことなど）
- オ その他
- （無回答）



回 答	ア	イ	ウ	エ	オ	無回答	計
	2, 513	67	221	346	183	39	3, 369

全体で見ると、「高齢者に関する困りごと（医療や介護、生活のことなど）」（74.6%）が7割を超え最も高く、次いで「生活困窮に関する困りごと（生活保護や多重債務のことなど）」（10.3%）、「子どもに関する困りごと（妊娠中の不安や子育てのことなど）」（6.6%）、「その他」（5.4%）、「障害者（児）に関する困りごと（生活や就労、将来のことなど）」（2.0%）の順となっている。

「その他」の主な内容では、「家庭内（夫婦・親子関係等）や近隣とのトラブルなど」が特に多く、次いで、ごみの収集や交通の利便性といった「生活・住環境に関すること」、子どもの「不登校やいじめ等」が挙げられた。

※ 複数回答も見受けられたが、回答のまま集計しているため、「n」と「回答数」の計は一致しない。

【問3】複雑・複合的な困りごとを抱えた世帯の把握

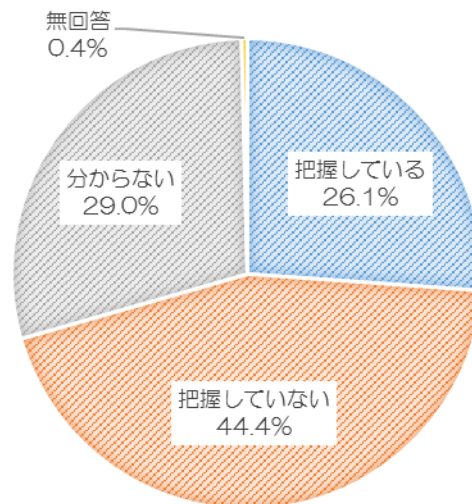
あなたは、ひとつの世帯で“公的な福祉サービスの分野をまたがる困りごと（いわゆる「複雑・複合的な課題（※）」）”を抱えている世帯を把握していますか。

[n=3,295]

- ア 把握している
- イ 把握していない
- ウ 分からない
- (無回答)

(※) 複雑・複合的な課題とは・・・

高齢者福祉、障害者福祉、子ども・子育て福祉など、公的な福祉サービス分野をまたがって支援を必要とする者（次の「問4」に一部例示）



回 答	ア	イ	ウ	無回答	計
	861	1,464	957	13	3,295

全体で見ると、「把握している」(26.1%)は3割を下回り、「把握していない」(44.4%)と「分からない」(29.0%)は合わせて7割を超えている。

【問4】把握している困りごと（複雑・複合的な課題）

問3で「ア 把握している」と答えた方にお聞きします。

それは、どのような困りごとでしたか。

当てはまるものすべてに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

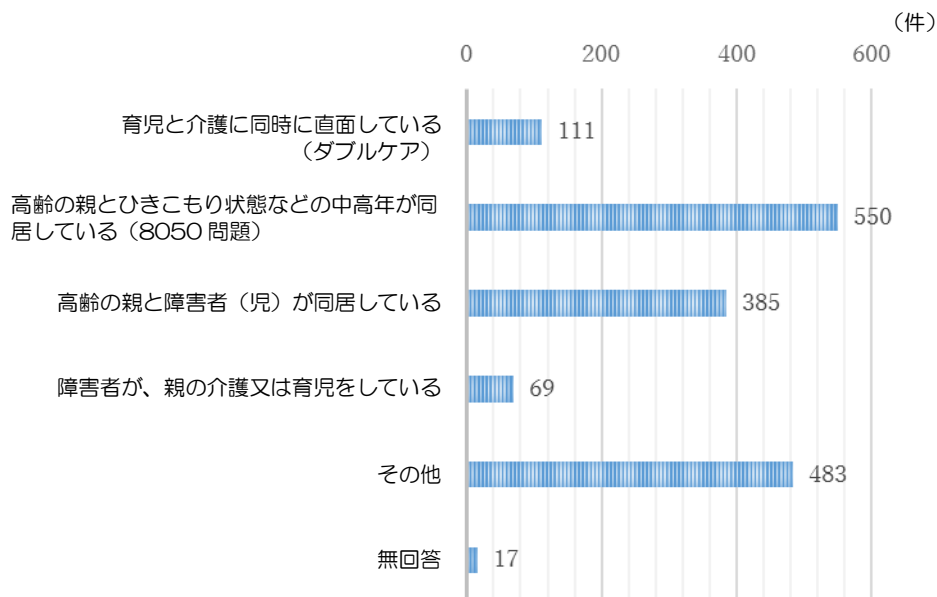
[n = 861 \*複数回答\*]

- ア 育児と介護に同時に直面している（ダブルケア）
- イ 高齢の親とひきこもり状態（※）などの中高年が同居している（8050問題）
- ウ 高齢の親と障害者（児）が同居している
- エ 障害者が、親の介護又は育児をしている
- オ その他  
（無回答）

（※）ひきこもりとは・・・（「問8」及び「問11」でいう「ひきこもり」も同様）

概ね15歳から65歳未満の者で、次に該当するような方

- ① 仕事・学校・家庭以外の人との交流などの社会参加ができない状態が概ね6か月以上続いていて、自宅にひきこもっている状態の方
- ② 上記のような社会的参加ができない状態であるが、時々買い物などで外出することがある方



全体で見ると、「高齢の親とひきこもり状態などの中高年が同居している (8050問題)」が最も多く、次いで「その他」、「高齢の親と障害者 (児) が同居している」の順となっている。

「その他」では、以下のような内容が挙げられた。

その他の記述 (主なもの)

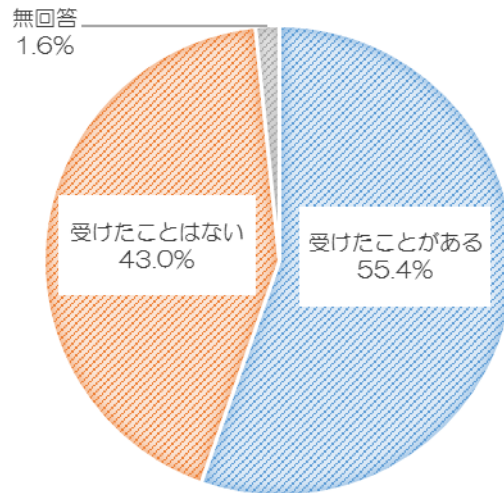
- ・ 高齢者が高齢者の家族 (夫・妻・兄弟・姉妹) を介護している (老老介護など)
- ・ 高齢者の祖父母と孫が同居している世帯
- ・ 独り暮らしの高齢 (障害) 者の生活困窮など
- ・ 高齢者 (又は障害者) のみで生活する世帯、高齢者と障害者のみで生活する世帯
- ・ シングルマザーによる子育て (経済難) など

【問5】複雑・複合的な困りごとの相談を受けたことの有無

問3で「ア 把握している」と答えた方にお聞きします。  
その世帯から、相談を受けたことはありますか。

[n=861]

- ア 受けたことがある
- イ 受けたことはない  
(無回答)



回答	ア	イ	無回答	計
	477	370	14	861

全体でみると、「受けたことがある」(55.4%)が5割を超えている。

【問6】複雑・複合的な困りごとへの対応

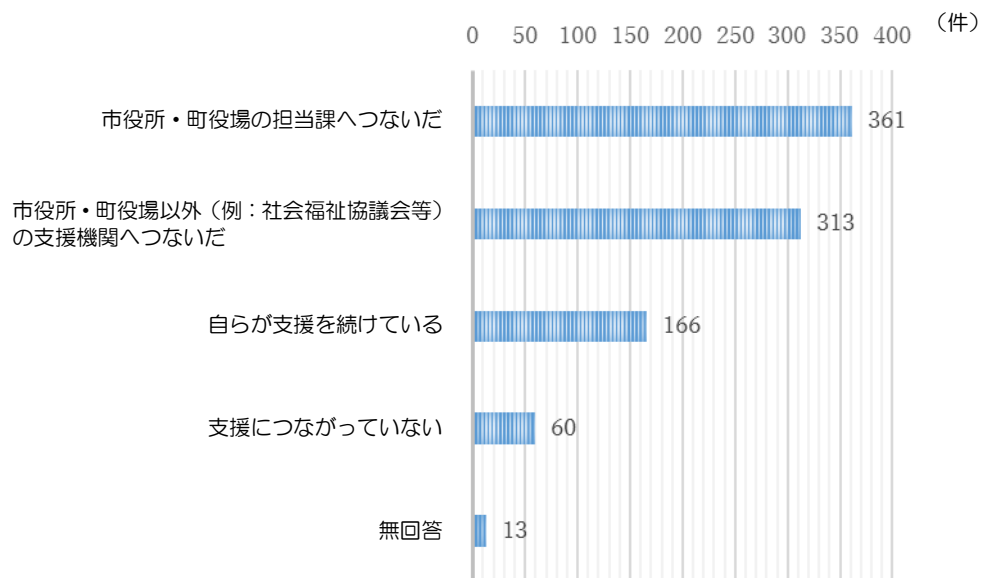
問5で「ア 受けたことがある」と答えた方にお聞きします。

その相談に対して、どのような対応をしましたか。

当てはまるものすべてに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

[n=477 \*複数回答\*]

- ア 市役所・町役場の担当課へつないだ
- イ 市役所・町役場以外（例：社会福祉協議会等）の支援機関へつないだ
- ウ 自らが支援を続けている
- エ 支援につながっていない
- （無回答）



全体でみると、「市役所・町役場の担当課へつないだ」が最も多く、次いで「市役所・町役場以外（例：社会福祉協議会等）の支援機関へつないだ」、「自らが支援を続けている」の順となっている。

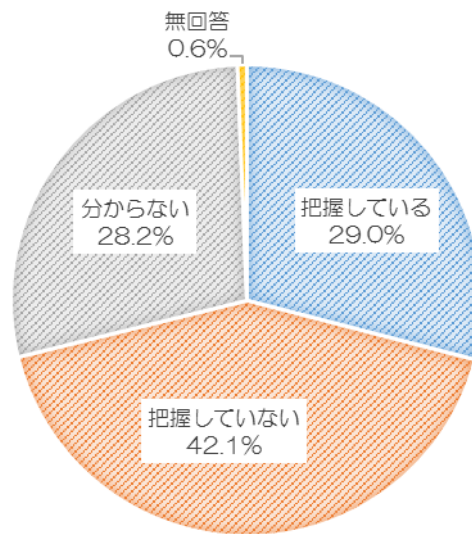


【問7】 制度の狭間にいる困りごとを抱えた世帯の把握

あなたは、“現行の福祉制度では基準を満たさないなどの理由により、適切な支援が受けられない困りごと（いわゆる「制度の狭間」）”を抱えている世帯を把握していますか。

[n=3,295]

- ア 把握している
- イ 把握していない
- ウ 分からない  
(無回答)



回 答	ア	イ	ウ	無回答	計
	957	1,387	930	21	3,295

全体で見ると、「把握している」(29.0%)は3割を下回り、「把握していない」(42.1%)と「分からない」(28.2%)は合わせておおよそ7割となった。

【問8】把握している困りごと（制度の狭間）

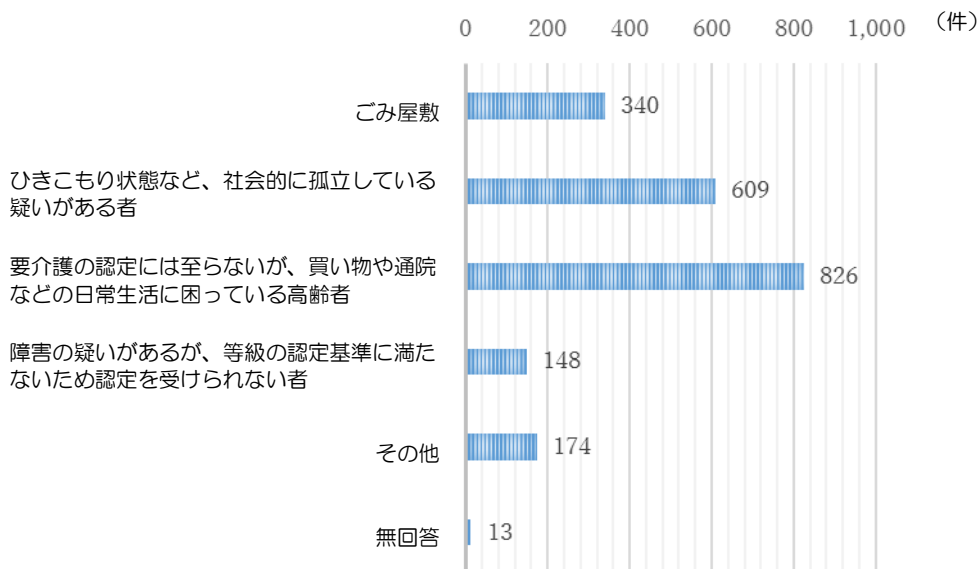
問7で「ア 把握している」と答えた方にお聞きします。

それは、どのような困りごとでしたか。

当てはまるものすべてに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

[n = 957 \*複数回答\*]

- ア ごみ屋敷
- イ ひきこもり状態など、社会的に孤立している疑いがある者
- ウ 要介護の認定には至らないが、買い物や通院などの日常生活に困っている高齢者
- エ 障害の疑いがあるが、等級の認定基準に満たないため認定を受けられない者
- オ その他  
(無回答)



全体で見ると、「要介護の認定には至らないが、買い物や通院などの日常生活に困っている高齢者」が最も多く、次いで「ひきこもり状態など、社会的に孤立している疑いがある者」、「ごみ屋敷」の順となっている。

「その他」では、以下のような内容が挙げられた。

その他の記述（主なもの）

- ・ 経済的に困窮しているが、生活保護の対象にはならない  
(土地や建物、通院のための自動車を所有しているなどの理由)
- ・ 母子家庭だが、親の年金収入や弟の収入があるため支援が受けられない
- ・ 本人が病院を嫌うため、診断書がとれない
- ・ 依存症（薬物・アルコール）
- ・ 身近な生活課題（ごみ出し収集場所が遠い、重いものを運べないなど）

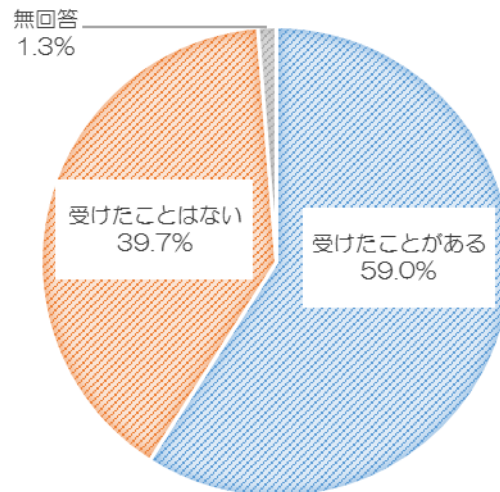
など

【問9】制度の狭間にいる困りごとの相談を受けたことの有無

問7で「ア 把握している」と答えた方にお聞きします。  
その世帯から、相談を受けたことはありますか。

[n=957]

- ア 受けたことがある
- イ 受けたことはない  
(無回答)



回答	ア	イ	無回答	計
	565	380	12	957

全体で見ると、「受けたことがある」(59.0%)がおよそ6割となっている。

【問10】制度の狭間にいる困りごとへの対応

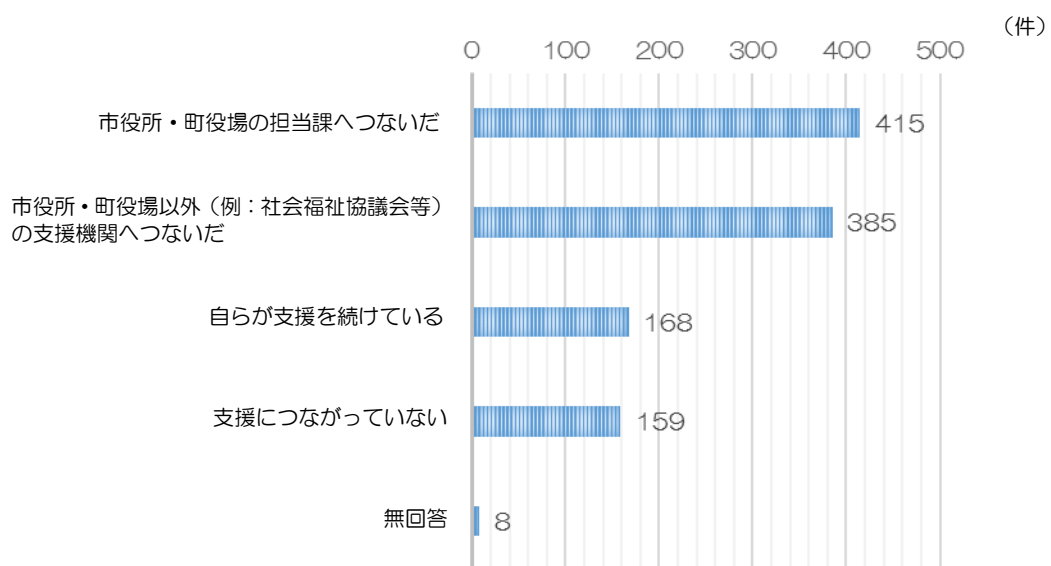
問9で「ア 受けたことがある」と答えた方にお聞きします。

その相談に対して、どのような対応をしましたか。

当てはまるものすべてに○をつけ、おおよその件数を記入してください。

[n=565 \*複数回答\*]

- ア 市役所・町役場の担当課へつないだ
- イ 市役所・町役場以外（例：社会福祉協議会等）の支援機関へつないだ
- ウ 自らが支援を続けている
- エ 支援につながっていない
- （無回答）

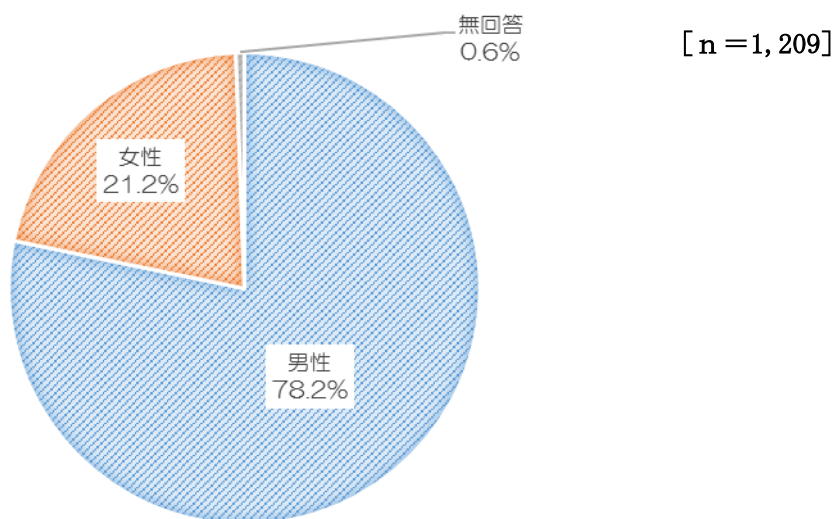


全体でみると、「市役所・町役場の担当課へつないだ」が最も多く、次いで「市役所・町役場以外（例：社会福祉協議会等）の支援機関へつないだ」、「自らが支援を続けている」の順となっている。

【問11】ひきこもり状態や、その疑いがある者について

※ 本調査により把握できた該当者の総数は「1,209名」となっている。

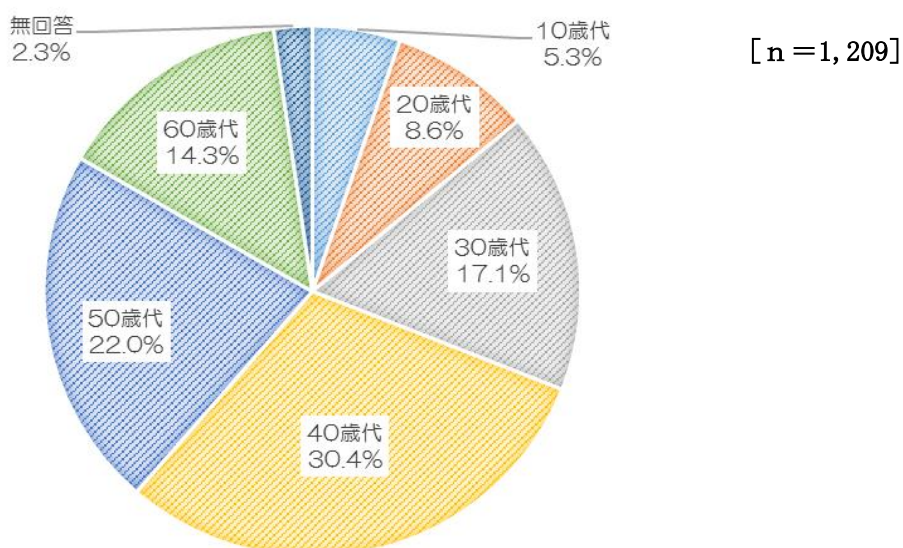
1 性別



回 答	男性	女性	無回答	計
	946	256	7	1,209

全体で見ると、「男性」(78.2%)がおよそ8割であり、「女性」(21.2%)より明らかに多い。

2 年齢



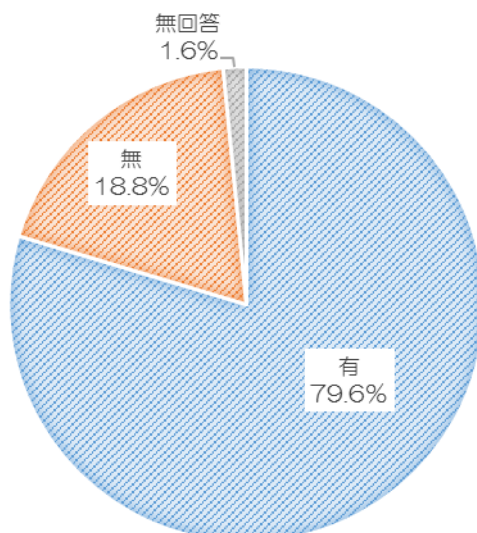
回 答	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	無回答	計
	64	104	207	367	266	173	28	1,209

全体で見ると、「40歳代」(30.4%)が最も多く、次いで「50歳代」(22.0%)、「30歳代」(17.1%)となっている。

全体のうち、年代で見ると、「10歳代から30歳代まで」(31.0%)がおよそ3割であるのに対し、「40歳代から60歳代まで」(66.7%)は、およそ7割となっている。

### 3 同居家族

[n = 1, 209]

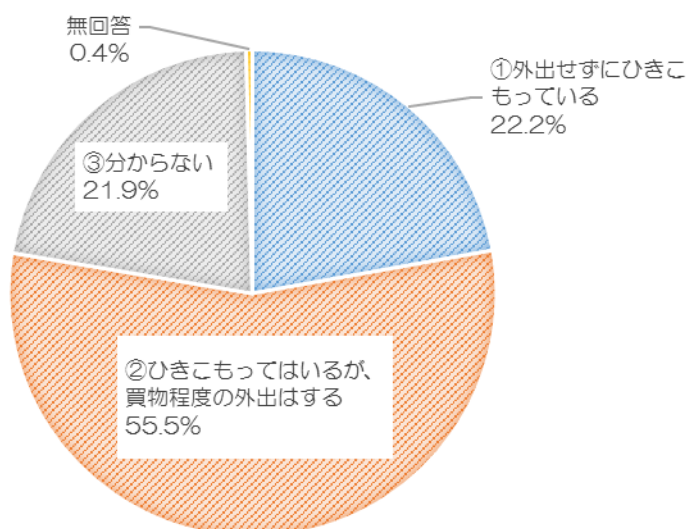


回 答	有	無	無回答	計
	963	227	19	1, 209

全体で見ると、同居家族の有無は「有」(79.6%)がおよそ8割となっており、「無」(18.8%)より明らかに多い。

### 4 ひきこもりの状況

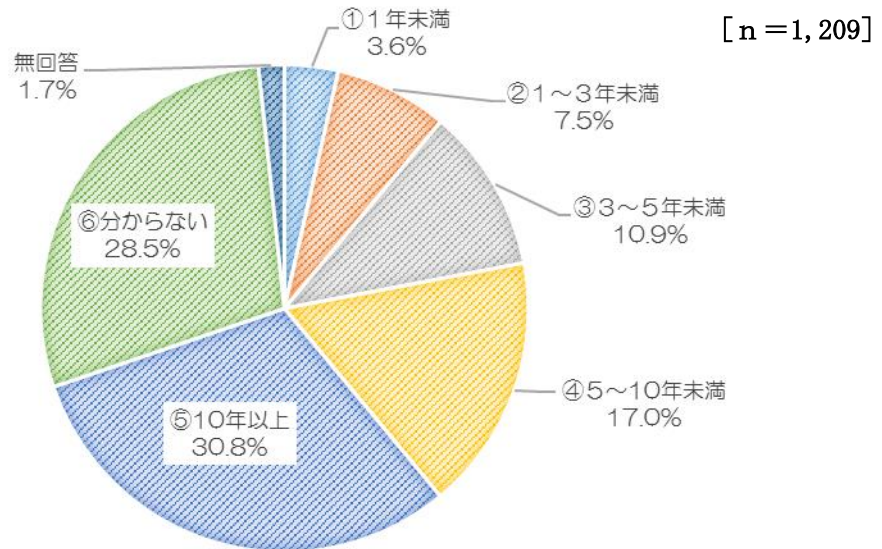
[n = 1, 209]



回 答	①	②	③	無回答	計
	268	671	265	5	1, 209

全体で見ると、「ひきこもっているが、買物程度の外出はする」(55.5%)が5割を超え、「外出せずにひきこもっている」(22.2%)がおよそ2割となっている。

## 5 ひきこもりの期間



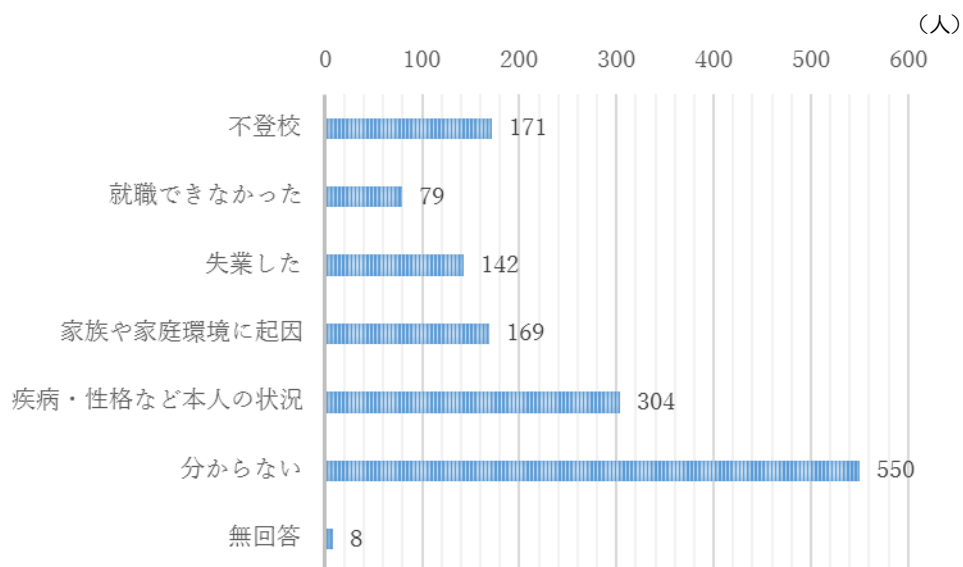
回 答	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答	計
	43	91	132	205	373	345	20	1, 209

全体で見ると、「10年以上」(30.8%)の割合が最も高い。

全体のうち、期間で見ると、5年以上の者がおよそ5割であり、5年未満の者は全体のおよそ2割となっている。

## 6 ひきこもりに至った経緯 (複数回答)

[n = 1, 209]



全体で見ると、「ひきこもりに至った経緯」が分かる者では、「疾病・性格など本人の状況」が最も多く、次いで「不登校」、「家族や家庭環境に起因」、「失業した」の順となっている。